

令和元年度 第1回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和元年6月25日(火) 10時から正午まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
石川 宏之 会長、伏見 和久 委員、杉山 昌之 委員、
海野 美枝 委員、弓削 幸恵 委員、杉山 美代子委員、
石亀 雅敏 委員、
(事務局)
岡村 渉 参与兼文化財課長
文化財課(登呂博物館)
宮本担当課長兼館長、梶山主査、益田主査、
鈴木主任主事、國島主任主事、川口主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録
 - 1 登呂博物館長挨拶
 - 2 博物館施設視察
 - 3 議事
 - (1) 平成30年度の事業報告について
 - (2) 令和元年度の事業について
 - (3) 議題「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」

事務局

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。それでは定刻となりましたので、ただ今より令和元年度 第1回静岡市立登呂博物館協議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、委員の皆様には報告をさせていただきます。登呂博物館協議会委員でいらっしゃいました藤田三佐子委員ですが、本年度より教育委員に委嘱され、登呂博物館協議会委員を辞退されました。解嘱による欠員の補充を行わないため、委員定数は9名となります。本日の会議は、7名の皆様にご出席いただいておりますので、過半数に達しておりますので、会議は成立いたします。

また、本会議は市民の皆様にご覧いただくことになっておりますが、傍聴希望の方はいらっしゃいません。

本日私が会の進行を務めさせていただきます。登呂博物館の益田と申します。よろしく願いいたします。それでは、開催にあたりまして、宮本登呂博物館長よりご挨拶を申し上げます。

1 登呂博物館長挨拶

館長

本日が令和元年度初めての協議会となります。前回の協議会以降の動きとしては、市の行財政改革推進審議会において、「登呂エリアの活性化」がテーマに選ばれ、審議され、今年3月に答申がありました。その答申において、遺跡の景観を改善し、観光客の方の高揚感を味わってもらう、南側の水田も水田化して全面的に水田とする、特別な場所で特別なイベントを実施するなどの内容で答申がありました。現在、答申の内容をできるだけ活かすよう準備をしております。本日の議題として、博物館の課題の解決について議論をしていただきます。そのため、昨年度の報告などを少し省略させていただくかもしれませんが、博物館が抱えている課題について、時間をかけて審議していただきたいと思っております。簡単ですが開会の挨拶にかえさせていただきます。

事務局

それでは次第に沿って進めさせていただきます。まず、配布資料の確認をお願いします。「静岡市立登呂博物館協議会委員名簿」、「次第」、「資料」、「令和元年度 登呂博物館組織図」、次に「2019年～2020年 年間スケジュール」、「企画展「FIRE」のチラシ」、「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」の提言案、同じくその議題の第一回、第二回議事録をまとめた資料、最後に「登呂博物館自己点検評価令和1年分」、以上になります。

続きまして、事務局から令和元年度事務局職員の紹介をさせていただきます。資料の組織図の方をご覧ください。

館長

それでは本年度の新入職員をご紹介します。主査の梶山倫裕。

事務局（梶山）

梶山です。よろしく申し上げます。

館長

次は主任主事の川口真浩。

事務局（川口）

川口です。よろしくお願いします。

館長

今年度みなさんの連絡担当の益田と町田で担当します。どうぞよろしくお願いします。

事務局

それでは議事に入りたいと思います。博物館条例第 12 条第 4 項により石川会長に進行をお願いしたいと思います。石川会長、よろしくお願いします。

石川会長

それでは、これより私の方で議事の司会進行をさせていただきます。よろしくお願いします。議事の開始にあたり、本日の協議会は議事録について公開していますが、公開にあたり、内容を会長や委員が確認し、署名することになっております。署名者として、弓削委員をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

弓削委員

（了承）

（1）平成30年度の事業報告について

石川会長

それでは、よろしくお願いします。

続きまして、平成 30 年度の事業報告の説明を事務局からお願いいたします。

館長

それでは平成30年度の事業報告をいたします。お手元の資料の 5 ページをご覧ください。

まず、平成 30 年度の入館者数の推移ですが、観覧者数が 37,425 人、総入館者数が 167,796 人となります。総入館者数は、前年度を少し上回ることができました。前年度比増となるのは 3 年ぶりです。ただ、課題は観覧者数が前年度

より減少していることです。つまり、入館者数は前年より少し増えましたが、有料部分の観覧者は減少しているという状況です。

6 ページをご覧ください。平成 30 年度の月毎の入館者数の数字となっております。12 月、1 月、2 月が例年どおり少なく、この時期の観覧者数の減少を食い止めたいと思っております。

8 ページをご覧ください。都道府県別観覧者数等調査「どこから来ましたか？」です。調査方法は、2 階常設展示室前に地図とシールを用意して、観覧者にどこから来たか、都道府県別にシールを貼ってもらいました。上位五位は静岡、神奈川、東京、愛知、千葉でした。海外からのお客様は、中国、台湾、米国が主な国となります。

9 ページをご覧ください。県内観覧者数の円グラフから、県内の観覧者は市内が 41%、市外が 59%で、比較的市外の方が多いことがわかります。

10 ページ、広報媒体「何で知りましたか？」の表によると、市内については学校・教科書で知ったという方が一番多く 285 人、次がインターネットで 187 人となっております。学校・教科書以外では、インターネットを通じて、知った方がかなりいることがわかります。

11 ページをご覧ください。交通手段「何で来ましたか？」ですが、東名経由の自家用車が圧倒的に多いことがわかります。次が新東名経由です。円グラフから、ほとんどの方が自動車またはバスで来場しています。公共交通機関と観光バスを分けていないので、はっきりしないところはありますが、おそらく大多数の方は駐車場を通過して博物館や遺跡に来られているのがわかります。

12 ページをご覧ください。連携地「次は・前はどこに？」です。連携地では、駿府城址、久能山東照宮、三保松原が多いのがわかります。こういったところとの連携が重要となると思われます。

続きまして、平成 30 年度事業実施状況について報告いたします。前回の協議会以降、9 月分から報告いたします。

まず企画展Ⅲ「平成×登呂」。68 日間の開催で、5,155 人の観覧者がありました。企画展Ⅳ「登呂をとめ 安倍をとこ」。こちらは 44 日間の開催で、3,121 人の観覧者がありました。春季企画展で「石をつかった、土器をつくった。—静岡市の旧石器・縄文時代—」につきましては、30 年度としては 8 日間の開催でしたが、917 人の観覧者がありました。この「石をつかった、土器をつくった。」では、静岡市内にある旧石器、縄文時代の遺跡を紹介しました。登呂遺跡からは少し離れて、静岡市内の遺跡を紹介するシリーズの第一弾になります。

15 ページの表をご覧ください。講座・イベントの報告の中で、登呂遺跡写生大会がありますが、昨年度初めて行った行事となります。登呂遺跡の絵画展として、年齢で 5 部門に分けて審査、表彰、展示を行いました。初めての開催の

ため、人が集まるか大変心配しましたが、56点もの応募がありました。ちょうど東京から観光で来た方も応募され、大変好評でした。

この他の講座・イベントとして、企画展Ⅳ「登呂をとめ、安倍をとこ」の関連講演会を行いました。昭和の発掘調査に関わった方で、元國学院大学栃木短期大学教授の下津谷先生と、「静岡考古館から登呂博物館へ」を元登呂博物館学芸員の中野さんに講演をしていただきました。どちらも登呂遺跡や博物館の歴史が紹介され、大変興味深いものでした。

16 ページをご覧ください。「小銅鐸チョコをつくる」も昨年度初めて行いました。

17 ページ、共催・連携事業をご覧ください。日本考古学協会共催公開講演会として、日本考古学協会の設立70周年を記念して「子どもたちと語る考古学と未来」を開催しました。記念講演会「考古学には夢がある」のうち、「最新技術が拓く考古学の未来」を野口先生に、「100年後の登呂遺跡」を禰亘田先生に講演していただきました。また、討論会「登呂遺跡の未来」では、事前に城南静岡高校の地域貢献部の生徒のみなさんに、弥生人体験をしていただき、その体験をディスカッション形式で紹介してもらいました。

19 ページをご覧ください。平成30年度の広報活動及びトロペーによる宣伝活動があります。そして、25 ページにボランティア活動について紹介がございます。

平成30年度の事業報告については以上です。

もうひとつご紹介したいものが、別紙の「登呂博物館自己点検評価」です。これは今回初めて実施したものです。日本博物館協会の自己点検表をベースに、登呂遺跡独自項目として「史跡の整備と活用」という項目を加えました。評価の方法は、まず各職員が各質問について○×で評価し、次に事務グループ、学芸グループ、指導員グループの3つに分かれて話し合いをしながら、グループとしての評価をし、評価の理由をコメント欄に書き入れました。そして、グループ毎に、優先する取り組み内容の案を出しました。すべての質問で取り組み内容を決めた訳ではありませんが、今年度自己評価を試行して、色々と発見がありました。例えば、今まで登呂博物館で実施していなかったことについて、他の博物館・美術館では実施していたり、逆に登呂博物館では集中して取り組んでいたことがわかったりなどという発見がありました。できれば毎年続けて点検し、取り組み内容を向上させていきたいと思えます。内容についてまだ手を加える必要があると思えますが、報告させていただきます。

これで平成30年度の事業報告を終わります。

石川会長

ありがとうございました。それでは、今の報告に対してご質問ご意見等あれば挙手してください。

私から二点、都道府県別と、海外からの来訪者の件ですが、2階の常設展示前での調査結果ということは、観覧料を払って常設展に入られた方々のデータということですね。私の記憶では、ロシアの方が多かった時がありました。今回はドイツの方が12人と意外と多かったようですね。アメリカ、台湾、中国、韓国が多いのはわかりますが、ドイツの方が結構来たのは、近くで会議があって立ち寄られたのか、それとも清水港の客船から団体が来たのか、もしわかれば教えていただきたい。

館長

数が少ないので、詳しいことはわかりませんが、1グループ来るとその国だけ、例えば、ドイツの観光グループがくると、それだけでドイツが突出して高くなってしまうことはあります。仕事で来たグループが登呂遺跡に来ることもありますので、これだけでは国別の特徴やばらつきを説明するのは難しいかと思えます。

石川会長

観光よりもビジネスで来られる団体の可能性が高いということですね。

もうひとつ、講座・イベントに関して、本当に多くの事業を行っていて、逆にこれほどやっっているながら一人職員が減っていることから、今後のマンパワー不足と、職員のみなさんが倒れてしまわないかと心配もあります。後半の議題でもありますが、子ども世代へ登呂の魅力を伝え、継承するための課題解決のために、子ども世代を対象にした事業が、半分程度あるようです。逆に、この数の事業を今後も継続して開催するべきなのか、それとも、もう少し事業内容を精査することも、自己点検・自己評価を反映しながら整理した方がいいのかなというのが私の意見です。

また、この自己点検・自己評価は、日本博物館協会が提案しているものを、全て実施されたと思いますが、都道府県立レベルの大きな博物館であれば職員数が多いので全て点検できるでしょうけれど、登呂博物館レベルでは、質問を選択して、自分たちの強みを認識した上で、集中すべき箇所を考えて実施した方が、無理なく持続的にできるだろうと思います。そのことも含めて議題の中で話をできればと思います。

皆様からご質問ご意見はございますか。

伏見委員

ひとつ教えてください。先程、登呂遺跡の写生大会がすごく良かったと話が出ましたが、その原因は何ですか。

館長

写生大会の目的は、登呂遺跡を見直してもらいたく、特に地元の小中学生が足を運んで写生をすることで、登呂遺跡を見直すきっかけになるのではないかと期待していました。非常に好評だった点は、まず、作品がかなり長い期間展示され、見ることができたので、ご家族と一緒に見に来ていただけました。表彰式にはほとんどの受賞者の方が出席してくださいました。東京の方も出席してくれて、参加された皆様には楽しく嬉しいイベントになったようです。そのような点が好評だった原因だと思います。

伏見委員

ありがとうございます。

昔は、小学校でも図工で写生する時間が結構ありました。みなさんが経験しているかどうかわかりませんが、図工の時間になると、2時間ずっと外にいて写生をする授業がありました。最近では、写生の時間が無くなってきているので、新鮮だったのでしょうか。学校では味わえないことを、ここで味わえたからではないかと思うので、学校で欠けてきた部分をこういったところで補えると当たるかなという気がします。非常に興味深いデータだなと思いました。ありがとうございます。

杉山昌之委員

写生の時間、ありましたね。一日くらい出かけてやりましたね。

伏見委員

そうでしたね。今はもうありませんよね。

石川会長

他に何かご意見ご質問はありますか？

石亀委員

8ページの「どこから来ましたか」ですが、山梨県は、隣の県でありながら非常に人数が少ないと感じました。今度、中部縦貫道路ができることによって、少し近くなるし、広報ができるのではないかと思います。

館長

おっしゃるとおりです。東名、新東名高速があるので、首都圏から日帰りできますが、山梨では（登呂遺跡の）知名度が低く、あまり知られていないかもしれません。

昨年、甲府市で行われた縄文祭りに、トロベエが弥生時代のキャラクターとして招待されました。縄文祭りでしたが、トロベエは有名なキャラクターということで、あえて招待をいただきました。このようなPRもなかなかの効果があると思いました。

石川会長

ありがとうございます。他にございませんか。

杉山美代子委員

イベントの中には定員を設けているものもありますが、企画によっては2人しか参加者がいないものもあり、もったいないと感じます。努力されているわりには、特に子ども向けの土器づくりや、プラモデルを作るイベントは、PR不足なのか、参加者が少ないので、もう少し参加が増えるといいなと思いました。

また、説明にはありませんでしたが、ボランティアの研修回数が例年より少ないようですね。近所でボランティアをされている方から、最近ちょっと研修が少ないし、知識が無いままお客さんにお話ししている人がいると聞きました。研修が減ったのは時間や余裕の無さが要因でしょうか。職員数も減ったということですし。ボランティア数は増えているので、きちっと来館した人に伝えられる人を育てて、そこから広げていく手もあるかと思えます。

館長

ボランティアについては、今は登録者数を増やすことよりも、出席してくれる方を増やす方向で考えております。ご指摘の研修については、今年から新人向けの研修回数を増やすことにしています。貴重なご指摘ありがとうございます。

石川会長

ありがとうございます。他にありますか。

弓削委員

本当にたくさんの講座を実施されていて、準備、広報など大変だろうと思

ます。6 ページにある小学校、中学校、高校、大学の数字が入っていますが、この単位は人数ですか。例えば、小学校の 29 年度は 187 人ですか、187 校ですか。

館長

学校数です。

弓削委員

なるほど、学校数ですね。この学校数に照らし合わせる人数は、どこになりますか。

館長

左側の 6 ページの一番上表の小中学生減免等の欄になります。小中学生の団体は減免されますので、生徒・児童の数がそのまま人数となります。

弓削委員

そうすると、令和元年度はもう 6,518 人の小中学生が来ていて、昨年度は 13,123 人の児童生徒が来たということになりますかね。小中学生の中でも、小学生の方が多という理解でよろしいですか。

館長

はい。小学生の方が多と思います。授業で取り上げられる内容と関連しているので、小学 6 年生が多いと思います。

弓削委員

そして、その半数近くが 4、5 月に来て、この時期に一番多く来館していることになるようですね。そのお子さんたちにどのような内容のプログラムを提供されていらっしゃいますか。

館長

やはり見学が主になります。だいたい 4 月から 7 月に来る学校が多く、特に（6 年生の歴史の）教科書で最初に弥生時代を学びますから、その時期に来ることになります。見学の流れとしては、まず遺跡や常設展示室の出土品の見学をされて、時間があるときに体験をする形になります。

弓削委員

ありがとうございます。

石川会長

他にありませんでしょうか。

今日は2年目の最後の会合なので、少なくとも1回は発言をぜひお願いします。

伏見委員

入館者数・観覧者数の表について教えてもらいたいのですが、昨年5月と今年5月を比べてみると、小中学生の有料の方（観覧者）が568人から951人と、すごく増えていますが、これも10連休の影響ですか。学校は減免されますので、こんなにたくさんのお子さんがお金払って来ていることに驚きました。

館長

特別な理由は考えられませんが、今年はGWが10連休でしたから、休みの日数が多いこともあって増加しています。小学生の方は家族連れで来ている方が多いということです。それも県外からの方が多く来館されています。

事務局

市内のお子さんは子どもカードを使って無料で見学できますので、市外県外のご家族連れが多いかと思います。

伏見委員

いい滑り出しですね。

石川会長

杉山委員は何かございますか。

杉山昌之委員

それでは、中学生はいかがですか。

また、先程も島田市の小学生が見学されていましたが、静岡市も小学校はこのような時期に来ると思いますが、例えば、県外の小学校が修学旅行などで来ることはありますか。

館長

中学生については、数は多くありませんが、明治大学の附属中学校の方が来

いただいています。(登呂遺跡は) もともと明治大学と縁が深い遺跡なので、春先に明治大学の附属学校のうち数校来ております。あとは八王子市の小中学校が合同下見会で来ております。その後、八王子市から学校単位で見学に来ていただいています。

杉山昌之委員

県外の方はそれほど多くないということですか。

館長

ご指摘のとおりです。修学旅行向けのアプローチが不足しているためかと考えております。ホームページなどで修学旅行向けのプログラムを紹介して、所要時間や内容をわかりやすく示していけば、もしかしたら需要を望めてくるようになるかもしれません。

杉山昌之委員

修学旅行の行き先となると、登呂だけの問題ではなくなるとは思いますが、全国的に見ても登呂遺跡は教科書に出ているから、静岡へ来る修学旅行の行き先の中に入れていけるといいなと思います。

石川会長

するが企画観光局との地域連携とか、DMOとか、情報提供とか、そのような動きはありませんか。

館長

今のところはありません。

石川会長

そういったところとコンタクトすると、修学旅行の営業も含めて、やっていただいているかなと思います。多分登呂博物館自身でやるのはちょっと難しいと思いますが、DMO等の構成団体になって、そういうところと接続していいかもしれません。

館長

そうですね。

石川会長

海野委員はいかがですか。

海野委員

修学旅行の話の続きになってしまいますが、私の甥が今18歳、大学1年生ですが、小学校6年生の時に修学旅行で登呂に来ています。横浜市都筑区の小学校でしたが、その時は、地びき網とセットで登呂にも体験に来たようです。旅行会社がどのようなプログラムを提案していたのかわかりませんが、本人が登呂遺跡を教科書で見っていたから、記憶に鮮明に残っているようで、地びき網の話よりもここに来た話の方が多かったです。

修学旅行に関しては、教科書との連携で、可能性がすごく高いのかなと思っています。でも単体ではなかなか難しいですね。

課長

今言っていたことは、おそらく東海大学の中のしずおか体験旅行という会社の提案だと思います。その会社では、地びき網と登呂遺跡などの体験型の旅行をセットにして売り出しています。特に神奈川、東京に向けているので、その可能性が高いと思います。しずおか体験旅行は今もやっていますが、そこにどう乗ってもらうか、どう連携していくか。もしかしたら、しずおか体験旅行の提案を採用していただいた方が、(登呂遺跡にも)来ていただいたかもしれないので、DMOも大事ですが、観光との連携をピンポイントでできるかなと思います。

それから、以前は名古屋の小学生が静岡、登呂遺跡によく来ていたようですが、最近はなくなってしまっています。福島の中学校は東京へ行くけれども、(以前は)その先の登呂遺跡までわざわざ来ていたり、あるいは奈良や京都に行く学校が、帰りに静岡に寄ったりしていたみたいですが、今は静岡で降りてくれることはほとんどない現状があります。そこで、先生方にうかがいたいのですが、うまく仕掛けをすると、途中下車などは可能ですか。今は東京からのぞみに乗って名古屋に行ってしまうと、静岡で新幹線を降りないという選択肢が非常に多いと聞いていますので、そのような点も課題解決が必要だと感じております。

石川会長

小学校、中学校の修学旅行で設定される基準や優先順位は、どのようなものがポテンシャルが高いのか、選ぶ理由などを先生方のご経験上アドバイスいただけますか。

杉山昌之委員

まず、途中下車は非常に難しいです。全体の日程をたてていくと、新幹線から降りて、ちょっと見学して、すぐ出発という訳にもいきませんので。そうすると、最近をよく首都圏から川根にお茶の体験をしながら、修学旅行のように来ていますので、そういった事例を参考にして、静岡を目的地にして来ている学校を、いかに取り込むかという方が現実的かなと思います。中学校の修学旅行で言うと、行き先は京都・奈良だから、行きと帰りの新幹線はもう割り振ってしまうので（途中下車はしません）。同じように考えれば、途中下車をしてもらうよりは、静岡を目指して来る学校を狙った方がいいのではないかと思います。

伏見委員

（静岡市内の）小学校だと、ほぼ東京、関東へ行きますが、「修学旅行」と銘打って行く学校が大体7、8割です。2割くらいは「体験教室」と銘打って行きます。私が前にいた南部小学校がまさに「東京体験教室」でしたから、日程全て体験です。もしそのような体験をメインとした学校が他にあれば、体験教室ということで、こちらに途中下車してくる可能性はあると思います。例えば、（南部小学校では）静岡からいきなり東京へ行ってしまうのではなく、まず鎌倉へ行って、東京へまわってきて、最後、新幹線で戻ってきます。いずれの場所においても体験を行いますし、目的によって場所が決まるので、目的が体験という学校が寄ってくれると思います。ただ、目的が旅行というところは、多分新幹線を降りないだろうと思います。

石川会長

そういう意味では、やはり少なくとも一泊二日で、この登呂を含めた「体験できるプログラム」を他のところと連携しながら立てられれば、立ち寄りではなく滞在してもらえるけれど、そもそも（登呂博物館に）団体利用できる体験メニューが無ければ、旅行目的の団体だけでなく、体験目的の団体も増えないことになりますね。既存の講座やイベントの中で、うまくアレンジしてできるかどうか、あとはホームページなどに常時アップして受入体制をできるかどうか、そういうことが課題なのかもしれません。

皆様、他にご意見よろしいですか。ちょっと報告について時間かけましたけれども、次は令和元年度の計画、事業について事務局からよろしく願います。

館長

それでは資料の27ページをご覧ください。令和元年度に関する説明です。ま

ず企画展ですが、ひとつ目の「石をつかった、土器をつくった。」は先程の説明のとおりです。ふたつ目の企画展「FIRE」では、(飲料メーカーの)キリンに「FIRE」という缶コーヒーがありますが、キリンビバレッジ様に話をしたところ、協賛企画をしていただくことになりました。(展示では)火をつかった物のひとつとして、コーヒーの焙煎に関する展示を担当していただき、(関連事業では)無償でキリンの飲み物を呈茶サービスのような形でコーヒーを提供していただくことになりました。民間企業との連携は今までにない試みになります。

企画展関連事業として「たけあかりワークショップ」を、久能山東照宮で「竹あかり」という竹を使った照明のワークショップをされている大村さんに、登呂遺跡でワークショップをやっていただいて、夜の遺跡で完成品を展示するイベントを企画しております。

その下の企画展「芹沢銈介と考古(学)」は、隣の芹沢銈介美術館に展示品の協力をしてもらって行います。

28 ページの企画展「古墳のきらめき―賤機山古墳展―」ですが、これは富士市にある博物館と連携して企画をやれないかと話し合いを始めているところです。

最後の企画展は「お米づくり、はじめました。―静岡市の弥生時代―」を考えています。

29 ページの「(仮称)TOROFES」新規事業がありますが、これは駿河区役所の魅力づくり事業として、駿河区内の大学生が駿河区の地域資源の活用をテーマに議論を重ねて、登呂遺跡を舞台にしてイベントを企画しました。ステージのイベントやショップを開いたりする予定になっています。

令和元年度の事業計画の説明でございます。

石川会長

どうもありがとうございます。今の令和元年度の事業についてご意見ご質問等ありましたら挙手をお願いします。

石亀委員

イベント、企画展のパンフレットについて、私は中田本町に住んでいますが、老人会長をやっている友だちから、老人会の方は登呂遺跡のパンフレットがきめ細かく配布されているとききました。ところが自治会の方ではかなり抜けているように感じていますが、配布方が違いますか。

館長

実は自治会の方でも、配布物が多すぎて悲鳴をあげていると現状があるから

かもしれません。そのため（自治会に配布するのは）ポスターにするか、チラシにするか選択するというルールが区役所にありますので、チラシを配りにくいという状態になっているのかと思います。区役所でもルールがあるので、両方を配ることができない状況です。

石亀委員

自治会で回覧にするか全戸配布にするかということになると思うんですけども。私も気をつけて見ていると、（老人会の方に）いい企画のパンフレットが入っているので言わせてもらおうんですけど。逆に老人会の方が多すぎて悲鳴をあげていますね。

石川会長

その他にありますでしょうか。

杉山昌之委員

さっき最後に話をさせていただいた新規事業の TOROFES はとてもいいと思います。駿河区の大学生が活用をテーマに意見を重ねて、自分たちでイベントを実施していく形。駿河総合高校で市政出前講座をしていたと思いますが、大学生もですが、最近は駿河総合高校も、サレジオなどでも、「まち」をどういう風にしていこうかという内容で企画したりしていると思います。そこで、大学生だけでなく、高校生にも生徒による企画をさせていくことで、「登呂でこんな勉強できるよ」「こんな体験ができるよ。だから来いよ」という外側から働きかけで動くのではなく（内発的に動くようにする）。ここにあるものを活用して自分たちのまちを、もしくは、自分たちの資産をどういう風に活用したり、どういうまちにしていきたいかということ、市政出前講座などで、高校生自身もこの良さや価値に気づいて、地元の価値をもっと広めていくにはどうしたらいいかを、高校生が考えて自分たちでやっていくっていうこと、それらの動機が外発的なものじゃなく、内発的なものになってくるのがすごく大事ななと思っています。まさに学校でやっている色々な行事、イベントを子どもたちに体験させるのは、そういった内発的な動機をいかに持たせていくか（が大事）。そういう企画をした子どもたちがやがて大人になるわけなので、子どもたちに企画させるのはすばらしく、すごくいいなって、ぜひこういうのを進めてほしいなと思いました。

石川会長

ありがとうございます。具体的にはどこの大学ですか？

館長

静岡大学、静岡県立大学、常葉大学ですね。駿河区では英和大学が参加しています。

弓削委員

関連して、静岡学として小中一貫で登呂周辺の地域をテーマにしている小中学校とはどうですか？

館長

残念なことに、まだ具体的な動きはありません。

弓削委員

そうですか。

館長

そのことについて、先生方にお聞きしたいのですが、前年度の終わりぐらいにはすでにカリキュラムを決めていらっしゃいますか。

伏見委員、杉山昌之委員

そうですね。早いですね。

館長

そうなる、その時期より前にお願ひしなければいけないと思います。

杉山昌之委員

単発ものであれば、わりと周りをまきこめるかもしれないけれど、ある程度リンクさせるとなると、静岡学含めて地元も含めて総合の中で実施する、その先のビジョンを見据えてとなると、ある程度計画が必要になってきますよね。

弓削委員

そうですね。

伏見委員

小中一貫教育が令和4年度からスタートするので、3年度の終わり、2年度の終わりにはカリキュラムができていはずなので、そこに登呂、登呂学を入

れるとなると、早めに手を打っていかないといけないなと思います。幸い、富士見小、森下小はまだ決めてないなと思いますから。ただ、今後急ピッチで進むかもしれないので、そうなったらわかりません。

駿河区では防災を静岡学でやることに決まりそうなので、今色々なところで検討段階にあります。そこに登呂が入るかどうかというところですかね。

弓削委員

ぜひ、この地域の魅力としては、小中学生も含めて動いている様子が外に向かうとすごくいい表現になると思うので、アプローチがうまく効果が出るというなと思います。

石川会長

今おっしゃったように、小中一貫教育の静岡学の中に、駿河区の小中学校のモデル校的として2、3校で、継続的に各先生の負担が無いようにカリキュラムとして組み込まれていって、一緒にやっていけることになれば、良いと思います。登呂遺跡とかでフィールドトークできるというような、お互いウィンウィンの関係が築けると、持続的な形として、小学生が中学生、高校生になった時に、ここのボランティアになって、静岡学を学ぶ子たちをサポートしていく、そういう循環がうまく繋がっていくといいですね。まさに人材育成ですね。

石亀委員

今まで先生方のお話もそうですが、この前ちょうど見学中の小学生と会ったので、ちょっとお話を聞いてみました。「どう思ったか」と聞いたら、「おもしろかった」「めずらしかった」「よくわからなかった」「楽しかった」とお返事をもらいました。私もここには非常に貴重なものがあることはわかりましたが、小中学生というより、(博物館では)ほとんど小学生中心のお考え方をされていると思われませんが、むしろ、この遺跡というものの大切さとか、考古学に対する関心を身に付けるには、ある程度心が成長した中学生になってからの方が大切じゃないかと思うところですが、先生方いかがでしょうか。

杉山昌之委員

おっしゃるとおり、中学生にもそういうのは必要だと思います。ただ、もしかしら中学生でも難しいかもしれないのです。静岡の中学生は修学旅行で京都・奈良へ行きます。私、今年から六中になりましたが、去年までいた五中は、明日香村へ行っていました。他の中学校はほとんど飛鳥村へは行きません。なぜなら、飛鳥村にはきらびやかな建物は無いですよ。残っているのは古墳で

あったり、土台の石であったり、そういうものしか残っていないです。よくよく勉強してくと、理解が進むでしょうけれども、なかなかそこまでいかないのが現実かなと思います。ただし、中には非常に興味深く、内的に入っていく子どももいますね。そういう意味で言うと、ここで勉強することの価値はもちろんありますが、ここで勉強してすごく理解したというよりも、ここで興味を持ったものが、いずれ開花するというぐらいの気持ちで(いてはどうでしょうか)。逆に言ったら、この価値をみんなでもっと活用するにはどうしたらいいか考えてもらうように、運用の方を子どもたちに企画とかを書かせていくことで、子どもたちが主体的に関わって行って、やがて、もっと深いところで繋がるのかなと思いますね。

石川会長

ありがとうございます。徐々に後半の話に移ってきている感じがしますが、とりあえず令和元年度事業に関してはよろしいですか。

それでは最後、後半の議題として「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を引き継ぐための、登呂博物館における課題の解決策について」ということで、まず素案について事務局から簡単に説明をお願いします。

館長

それでは資料の「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を引き継ぐための、登呂博物館における課題の解決策について」という資料をご覧ください。

最初に「案」と書いてありますが、今までの協議会でいただいたご意見をまとめたものになります。次に右上に資料と書かれたページがありまして、ここからが議事録になります。それを更にエッセンスでまとめたものが、第1回、第2回議事録よりと書いてものです。議事録があつて、議事録をまとめたものがエッセンスで、エッセンスをまとめたものが、表紙の答申案になります。

石川会長

ありがとうございます。議事録のうち、自分がちょっと気になった点、関心を持った点にアンダーラインを引かせていただきました。各委員が発言されたものが、答申案の「1 登呂遺跡・登呂博物館の現状と課題」の(1)現状、印象、(2)問題、課題や、「2 問題、課題解決に向けた提言」として、登呂の魅力、考古学の魅力、文化の魅力を伝えるためにという形で、それらを踏まえて「3 学びのステップを育てていくプログラム」という具体的な提案を記す流れになっています。

内容や表現など、過去の発言をふまえて意見を言っていたらとありがた

いです。あと、先ほども話のあった、小中一貫教育の静岡学や、子どもたちに自ら、登呂遺跡、登呂博物館の企画をさせたらいいのではないかという話は、「学びのステップを育てていくプログラム」に、書き加える必要があるかと思うところでございます。そういったことを含めて、ぜひご意見を出していただければと思います。

もう少し事務局の方から現状、印象、問題、課題、あとそれを解決するための提言の内容についてももう少し詳しくお願いします。

館長

それでは「1 登呂遺跡、登呂博物館の現状と課題」についてです。現状については、まず、地域の子育て中のお母さんたちの行き場所が無いので、遺跡が魅力ある居場所になってほしい、水路にザリガニ釣りの子どもが来ているので、こんなに生き物がいるということを伝えたい、季節を感じるイベントに参加して、家族連れにもっと使ってもらいたい、トロベエをもっと親しみを持って活用していきたいという現状があがりました。

「2 問題、課題」は、登呂遺跡が通過点となっているという点です。小学校6年生の社会科で学んだことが、その後の歴史の興味に移っていかず、通過点として登呂が捉えられているという現状があります。

それから、遺跡が親しまれるきっかけとして、トロベエが効果的であり、もっと活用されるべきとか、展示されている土器など、出土品は地味な印象があって、子どもに興味を持たせにくいとか、ホームページで、体験プログラムの発信が充分されていない、などという問題を抱えています。

それらをまとめたものが以下になります。

問題課題解決に向けた提言ということで、登呂の魅力伝えるために、最初に遺跡に対して親しみを感じてもらうことがスタートになり、子どもたちが登呂遺跡に対して親しみを感じるために、まずは水田の田植えだとか、稲刈りの体験に参加してもらおうということです。それから、公園としてもっと居場所になるような環境づくりが必要ではないか、これは多分ベンチが無かったり、木陰が無かったり、という意見も含まれています。次に、来館者を増やすために、博物館だけではなく、遺跡への来場に目を向けて、もっと登呂遺跡全体で来場者を増やす方法をとる。それからトロベエのキャラクターについて、バッジなどの活用をする、などです。

2つめの考古学の魅力を伝えるためには、考古学、発掘調査の研究の仕組みをわかりやすく紹介するために、土器の擬似発掘体験コーナーでレプリカの土器を発掘して破片を組み合わせて原形を再現する。まず土を掘って破片を発掘するところから初めて、組み立てて土器の形に完成する、そういう発掘のプロ

セスをわかりやすく体験させるプログラムを作ったらどうかということです。次に、世代を超えて感動を伝えるために、発掘したものを解き明かす。これは、今は汗をかいて体験をするようなものが求められているので、実際に汗をかいた体験から得た感動が、世代を超えて自分の親に伝わったり、子に伝わったりする形の教育プログラムになるのではないかとということです。

3つめの文化の魅力伝えるためには、学校では本当に手足を動かし汗をかかないと体験できないようなものを求められているので、手足を動かす学びのプログラムを作っていくことです。また、修学旅行生に向けた屋外体験プログラムをつくること。それから、これは核心的な指摘だと思いますが、多くの講座を実施していて、魅力的な講座を作ろうとする、それはいいことだけど、一方でひとつひとつの「薪」に着火するてだてが無い。色々なプログラムをたくさんやっているけど、着火点はまだ見つかっていない。そういうポイントを見つけることが大切だということでした。

それらをまとめたものが、3の学びのステップを育てていくプログラムということになります。

まず一番初めに登呂遺跡に親しみを持ってもらうために、例えば、生き物を捕まえてということでもいいので、遺跡に来てもらって、ここはどういう場所だろうという遺跡への「気づき」が生まれ、それがさらに調べたいという「学び」になり、「親しみ」、「気づき」、「学び」というステップになり、それを育てていくようなプログラムを作る必要があるんじゃないかということです。

2つ目として、プログラムを実現するためには、特に史跡で体験するプログラムは、職員だけでは実施困難なので、地域住民や農業関係者の支援を積極的に求めるということの必要があるということです。

最後は、「よく燃える薪」という比喻がありましたけど、イベントや講座の数をひたすら増やすことではなく、ポイントとなる事業について、着火点として重点的に事業に取り組むということです。以上です。

石川会長

どうもありがとうございます。今の説明に対してご意見ご質問があればお願いします。

石亀委員

私も講座に時々寄らせてもらいましたが、講座に参加するといっぱい参加者がいるんです。こんなに興味を持つ方々がたくさんいるのに、博物館の来館者数のギャップを、非常に私も感じていますが、この辺をうまく結び付けていく方法はいかがでしょうか。

館長

正直、なかなかそのポイントが見つかっていないところです。課題としては、1階の体験展示室で色々と体験ができますが、2階には観覧料を払わないと行けないので、1階の展示と2階の展示を結び付ける手立てについて、もう少し工夫があるのかなと思っています。来場のお客さんに対して、1階の展示室で色々な体験をして楽しんだ後、さらに観覧料を払って（2階に）上がると、もっとおもしろいものがあるということがなかなか伝わっていない。だから1階で満足してしまう方がいると思われませんが、2階に行くと本物の出土品が見られるところを繋げるような努力が、特に1階部分では必要なのではと思います。

石川会長

ありがとうございます。

石亀委員

美術館とか博物館とか、全国的にたくさんあるわけですけど、なぜ私たちは足を運ぶかという、そこには感動があるからということが考えられます。私も感動を求めて、遠くまでお金を使って行ったりしますが、残念ながらこの古墳、出土品の中にはそういう感動を与えるというようなものが見当たらない。そういう性質のものなんですよ。だから館長がこの前も言ったように、非常に貴重なものだけど、その貴重なものを貴重なものとして、なかなか訴えにくい。故に、もっと貴重さ、大切なものだっていうことを一般市民に、また来館者に知らしめたいとおっしゃっていますけれども、そのためにはどうしたらいいか。前回の企画「石をつかった、土器をつくった。」を見せてもらって、旧石器から、弥生、古墳と、流れを追って出土品を展示されていて、非常に動きがあって良かった。久しぶりにおもしろい、おまけに600点も展示されていることは、本当にご苦労して、小さいものもたくさんあり、ご苦労したんだなと感じました。できれば私たちからすると、旧石器のものと弥生時代のものと古墳時代と、どこがどう違うかって流れを見せると、流れというか動きが見せられないかと思います。そうすると、もう少し興味を持ってくれるんじゃないか。旧石器はこういう作り方を人間がした、ところが弥生になったらこういう作り方になっている、古墳時代になったらこういう作り方になったという、ものの変化を並べて見せることによって、もうちょっと興味を持ってくれるんじゃないかと感じました。

石川会長

ご意見ということによろしいですか。

石亀委員

はい。

石川会長

話を答申に戻して、まとめ方の議論をもう少し集中してやりたいと思います。提言の中の「学びのステップを育てていくプログラム」について、まずこのステップが書かれているかというところと、プログラムをどの程度まで具体的に書けるのか、その最後の着地点を明確にする議論をできればいいなと思います。それに対しての問題課題解決に向けた提言が1、2、3という形で対応が記されているか、さらに問題課題に向けての提言の前提条件として、現状認識とか、問題課題が書かれているか、その関係性を読み取れるかどうかという議論もご意見をいただけるとありがたいです。そもそも「学びのステップ」がどのようなステップかが読み取れるかというところですが、館長、この「学びのステップ」を具体的に説明していただけるとありがたいです。

館長

資料の16ページをご覧ください。アンダーラインを引いているところですが、まず「登呂がちょっと気になる」というところから始まり、次に「何か調べてみたい」、そして、だんだん「登呂が好き」になって、子どもの気持ちが発展していくところがありますが、そこを育てていくステップというか、そういったことを考えております。

実際にどのような形で育てたらいいのか、私の中ではまだぼんやりとしたイメージしかない状態ですけれども、最初に、例えば、生き物とかがきっかけとなって、登呂を知る、全く登呂に興味がなかったところから、まず登呂に来てみるところから始まります。登呂にきたから、いきなり勉強しようということにはならないので、登呂に親しみを感じてから、少しずつ遺跡だとか展示物だとか、なぜこれがこうなっているんだろうと関心を持つ。それが調べていききたいなという気持ちにつながって、登呂を調べていくうちに、登呂愛と言いますか、自分の郷土にこういった貴重なものがあるということを発見していく。そのように子どもが自然と向っていくようなプログラム、多分最初は生物観察であるとか遺跡内のクイズであるとか、色々な形があると思いますが、そういったプログラムを作れないかと思っています。

石川会長

ありがとうございます。正におっしゃるとおりです。まずは体験学習的な、

遺跡等での実体験を持ち、ものに対する認識や、そのものに対して興味を持ち、更に調べ学習的に、図書とか展示品とかを見ながら学び、先ほど石亀委員がおっしゃったような貴重さとか大切さとかを理解する。さらに、保存などの個々の活動に自ら参画していき、場合によっては、自分たちで企画運営するような事業に発展していける、主体的に取り組んでいけるステップがあり、最終的には登呂を愛する、郷土愛につながっていくステップにつながっていく。

館長

さらに言いますと、まず、低学年で遺跡に来てみて、学んで、好きになるというのがありますと、それがスパイラル状に、低学年から始まって、中学年になっても低学年のときと同じように、中学年のレベルに応じた親しみを感じて学んでいく、多分それが中学生になると中学生に応じた親しみや学び、そういうスパイラル状に上がっていくようなプログラムが何種類か用意できれば、低学年から中学生まで持続して、登呂愛が続くのではないかと思います。

石川会長

ありがとうございます。そういった具体的なプログラムが問題課題解決の提言に具体的に書かれるといいですけど。書かれていることだと思いますけど、その関係性が見えてくるといいと思います。

館長

そのあたりをぜひ、委員さんのご意見をいただきたいと思います。私の中ではぼんやりとした形のものしかなく、読ませていただいて感じたこととなりますので。そのあたりをもう少し形にして、ご意見をいただければと思います。

石川会長

はい。まとめ方として、例えば、(1) 登呂の魅力、(2) 考古学の魅力、(3) 文化の魅力というカテゴリーのまとめ方に関しては、ご意見ありますか。また順番はこれでいいのかとか。

以前の議事録を見ると、登呂学が一番初めにくるのではないかというご意見もあれば、登呂学が一番後ろの方じゃないかという、各委員さんの意見もそれぞれあって、重きというか、順序というのがあるのかどうか、並列にしたらどうか、というところもあるでしょう。

あとは、ここに書かれている箇条書きで、これは文化じゃないかとか、これは魅力じゃないかとか、私の発言したところをここに入れてほしいとか、具体的に議事録で、アンダーラインの中に私の意見が入ってないよとか、そういつ

た意見もいただけるとありがたいです。他には、あまりにも具体的すぎるので、これとこれをまとめて表記したほうがいいのか。

石亀委員

立て続けに発言して申し訳ないけど、弥生時代の遺跡から出た出土品に非常に注目していますけど、当時の人々の生活環境はどうなっているかを、もっと色々な角度から表現をしたらどうでしょうか。例えば、どういう風景であったのか、どういう動物がいたのか、どういう草花があったのか、何を食べていたのかという生活感ですね。それは弥生時代の人たちの、出土品が残っているその時代の環境はどういう状態であったのかが目に見えるような形で表現できないかと思いますが。

館長

それは、学びのステップのプログラム中で、例えば、遺跡に最初に来てから、当時の人々がどんな生活をしていたか、どんな動物がいたか。そんなことが学びのステップの中で提示されて、学習していくみたいなプログラムがあれば、おそらく、来た子どもたちがより深く弥生時代のことに興味を持ってくれるとか、そういったことでしょうか。

石亀委員

そうですね。いわゆる人間臭さのようなものを、出土品が固定されたものだけに、それに色をつけるとか、においをつけるというようなことを、出土品と一緒に表現していくことによって、もっと心の中に残って帰っていただけるんじゃないかと思います。

石川会長

それを答申の中にどう組み込むかっていうところですね。それは現状なのか、問題課題なのか。それとも具体的な提言の中に組み込むかですね。

石亀委員

どこにでも入ってしまうので、どこに入れていただいても結構です。

弓削委員

今のお話は、多分学びのステップの具体案になってくるのかと思います。

私は、この文章を読んで、「遺跡内の生き物を通じ」とあるのがすごく不思議で、「あれ？ 遺跡を見にきたのに」、「遺跡を通じた弥生人の文化を知りにきた

のに」と思ったんです。答申案の内容からすると、5、6年生の歴史の話からではなく、低学年から、ここに来て田んぼや生き物に触れるところからスタートするよということであれば、それは今言われたように、遺跡内の生き物だけじゃなく、弥生時代の環境をふまえた生き物に出会う場がまずあって、特に生き物観察などは小学1年生の段階から色々なレベルで理科の学習でやりますので、高学年になったら顕微鏡を使って学習するとか、赤米と黒米のことを調べてみるとか、そういう学習ともリンクさせます。その上で、弥生時代の生き物を基にした食はどうだろうかとか、衣類はどうだろうかとか、生活はどうだろうかということ想像すると、ここはどういう場所だろうという疑問を持ち、調べたいとなることで、学びのステップになっていくのかなと思いましたので、このテーマで「弥生人になろう」ということでいいでしょうか。

しかもトロベという最強のキャラクターがいますから、トロベでマンガを描かせたら、「トロベはどんな生き物と仲がよかったでしょう」など、きっと楽しいし、クイズやマンガなど、子どもの想像力が許されるならそういうこともできる。インスタ映えするトロベとの写真スポット、これはまあ余談ですが。

あと写生もできるなら図工と絡めてもいいのかもしれない。弥生人の生き方を学ぶ、暮らしを学ぶというところで、低学年から上までうまく作っていきけるような気がしました。答申案の中で「体験プログラム」という言葉がたくさん出てきますが、それはすなわち何かという、もう一声みたいところがあつたので。今言われたような当然といえば当然かもしれないけど、土器の擬似発掘コーナーも入っているし、田植え、稲刈りも具体例として入っているんですけど、やはり弥生人になってみようなのか、暮らしを見つめてみようなのか、具体的なキーワードが出るとおもしろいのかなと思いました。登呂学でもいいと思います。

石亀委員

私、医者待ち時間に日本の歴史というマンガを読みますが、大化の改新あたりからずっと連載されていて、最初は推古天皇が出てきて、マンガでその時代を表している。私たち大人が見ても、その時代がマンガだとわかりやすい。こういう発信の仕方があるんだなと思いました。

マンガで色々な生活とか、愛情とか、文化とか、争いとか、楽しみとか、マンガで表すと子どもたちの心の中にずっと入っていくのではないかと思います。

石川会長

ご意見ということでよろしいですか。

海野委員はコンサルタント業をされているということで、報告書、まとめ方、初歩的なことで恐縮ですが、こうするといいみたいなアドバイスいただけるとありがたいです。

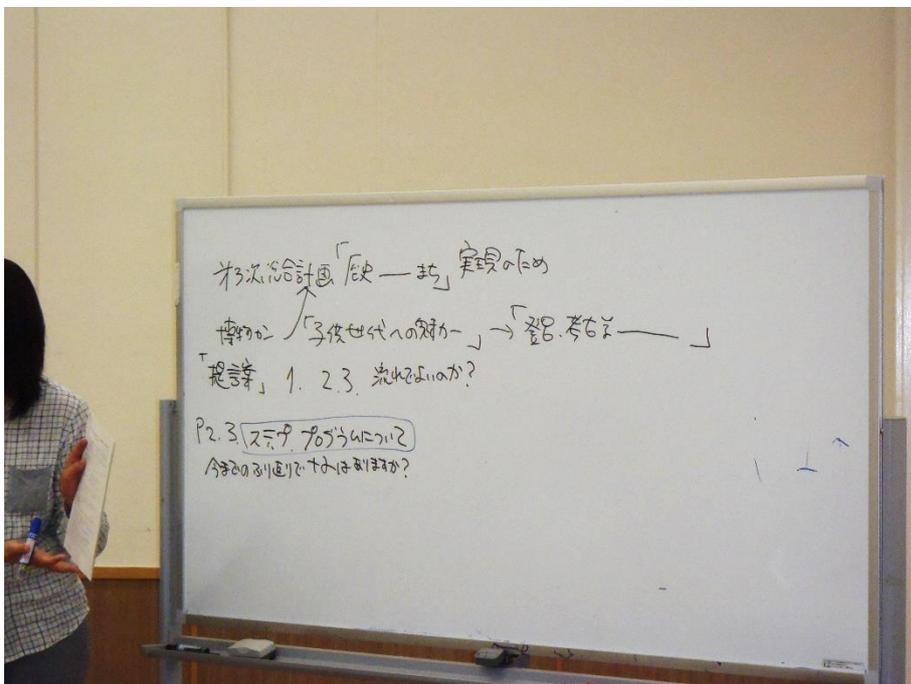
海野委員

ホワイトボード借りていいですか。

言葉だけで伝える自信がなくて、また、提案するというよりは、私自身の整理のために。一番元に戻ってしまって申し訳ないです。

「(歴史文化のまちの) 実現」があって、登呂博物館がそれに貢献する役割として、「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策」をテーマに話し合いをしているということですよね。

話し合ってきた内容を基に提言としてまとめる上で、案ができていますが、今話し合っているのは、1 (現状と課題)、2 (提言)、3 (学びのステップを育てていくプログラム) の流れで良いのかという点と、会長が3のステップとプログラムについて振り返ってくださっている。今そういう話し合いをしているということでよいでしょうか。



石川会長

おっしゃるとおりです。

今回の答申で一番重要なのは、学びのステップを育てるプログラムということと、ここの行き着くための2（提言）であり、1（現状と課題）であるということです。

海野委員

なるほど。この答申案のように、課題があって、その課題をどう解決するかについて、答えがこうです、という流れなのかなと思いますが、こういうときに割と主流なのは、ここ（子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承）に対して、目指す姿と、理想と現状とのギャップをこのように埋めたらどうでしょうという、その二つの流れがあります。細かくするともっとありますが、大きく分けてその二つの流れを整理できたらいいかなとは思いますが、課題から入ってしまうと、解決できることと、できないことと、重くなりがちになるので、どちらかという、実現のために博物館が考える部分に対してテーマがあって、このテーマに向かってこうしたらいいんじゃないですかというほうが、提言の段階なので、あり方としては具体案の話にならずにすむかなと思います。

石川会長

そうするともう2（提言）だけでいいくらいですか。2の内容が理想というかあるべき姿みたいであるところを提言する。

海野委員

そうですね。「魅力を継承するため」に対応して「伝えるため」になっているので。

石川会長

2（提言）を書けばいいってことで、1（現状と課題）も3（学びのステップを育てていくプログラム）も有る意味無くてもいいぐらいでしょうか。それとも2（提言）と1（現状と課題）はあった方がいいですか。

海野委員

伝えるために、基本的には1のような現状はあってもいいんですけど。これに対しての課題よりも、ロジックで言うと、細かい課題があがってしまっている、私の中で違和感がある。私の中で何を発言していいのかわからなくなっています。

石川会長

基本的には2（提言）が今回の一番の提言となり、3（学びのステップを育てていくプログラム）はあまりにも具体過ぎる、個別過ぎているので、これをもう少し抽象的にというか、まとめるということですかね。

海野委員

今更なんですけど、線を引いてくださっているところの抽出みたいなことが。

石川会長

グルーピング化されるといいということですよ。

海野委員

そうです。

石川会長

事務局どうしますか。

館長

提言案では、子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力って3つ並べてあるんですよ。無理やり3つに分けたところもありますが。あえて登呂とか考古学とかに分けないで、全体の中で柱となるような、あるべき姿に近づけるための提案みたいなものがグループ化されていけばいいのではないかと思います。

石川会長

3つあるけども、それを横断的に結び付けるような柱みたいなのが、グループ化されればいいということですかね。ありがとうございます。僕はまとめ方がこれでいいのかなと、例えば、提言のところがまず明確に伝わることが重要ということですよ。

現状と課題は、あるべき姿というか、そこは最終的に提言になるとして、ただその現状とかギャップが問題であり、問題を解決することが課題ということですかね。問題と課題をどこまでここに記すかという。

海野委員

そうですね。

石川会長

(現状や課題を) 記さないと、あるべき姿との対比というか、根拠となるものが記されないから、ある程度書いておいた方がいいということですかね。

海野委員

そうですね。先ほどおっしゃったように、私もザリガニとか出てきたのは「えっ」と思いましたが、それがグルーピングされていて、生物の学びとか、教育的に符号的に可能性あるよとか、可能性の方で伝わるような、現状ではということでは伝われればいいと思うんです。それで、整理の仕方とはちょっと違う観点ですが、子ども世代の魅力継承という意味で、対象は子どもということで、もう少し絞って話し合う時間をつくってもいいのかなと思います。

あと、子どもに関しても、市内と市外県外と分けて最終ゴールを定めるのかという点で、私の中で、市内であれば愛着とか誇りとかを育てていくことが、子ども世代には大事で、市外県外に関しては、学びのスポットとして、例えば、また来たいとか、そういった発信が最終ゴールになっていくのかなと思います。

学びのステップにそれを絡めて考えていくと、例えば、教科書にのっている授業でのエッセンス、この遺跡を伝えるエッセンスというのが、全国版で公の媒体になっている。先生方が子どもたちにある意味継承して、何を伝えていきたいかという部分を捉えて、市外県外に対するプログラムを作っていくのかなと思います。修学旅行も含めた学びのステップ、小学校の時はこれが学べるよ、中学生はこうだよと、大人になってももしあるなら、(各年代の) ステップがあるように組み立てていけばいいのかなと。そのような提言の形が継承していくにあたって、子どもたちにはバッジのようなものでステップアップしていくことで、また来たい、学びたいという、でもその根底には、やはり先生方がおっしゃっていたように、子どもたちの内発的な部分を誘発するのは大事ですが、プログラムとしては、きちんとカリキュラムを作っておくということが必要だっという提言になると思います。それを分ける必要があるのか、市内県外と分ける必要があるのか、そんなことを考えていて、でもこの発言でいいのかちよつとわからず、混乱していた状態でした。

石川会長

貴重なご意見ありがとうございました。

海野委員

あとお願いします。言いつ放しで申し訳ないです。

石川会長

まとめ方ですね。もしできればご意見を。

伏見委員

先ほどの現状課題のところは、テーマが魅力の継承なので、魅力の継承についてのことのみが書かれるべきだと思いました。2は提言と書いてあるので、読者は提言1、提言2、提言3と続くことを期待するわけです。だから提言1であれば3の学びのステップのところに書いてあるように、親しみを強めるために、強めるための何かということが提言の1にきて、提言2はさらに気づきになって、提言3で学びになってという、そういう柱のほうは提言らしくなるかな。これだと登呂の魅力、考古学の魅力って横並びになっている感じがする。それをズバズバズバっとうけるようなものを、来る人も知っていて、これは気づきのためなんだ、これは親しみのためなんだというものが書かれるといいかなと思いました。今のおっしゃったことですごく興味があるのは、自分の発言は南部小学校長だった頃のもので、子どもっていうのは地域の子どもをイメージして自分は言っているわけですよ。地域の子どもは、1年生の時から入学式の時にトロベーがうちは来ていたので、登呂遺跡＝トロベーだから、トロベーの住んでいる登呂遺跡、ご飯を食べている、ここで住んでいる登呂遺跡と認識して発言をしているので。違う学校の人からすれば、今も静岡以外の土地から見れば、初めて出会うのは6年生の見学、ここで初めて出会うので、そこを気づきのスタートになるわけですよ。だから親しみのスタートする場所が全然次元が違うので、地域の方は静岡学のなかで登呂学をやるけれど、他のところの静岡学では登呂を扱わないので、この地域の人、地域以外の人たちもリピーターになってやってくれるようなプログラム、やはり二つ作る必要はあるんだろうなって思いました。以上です。

石川会長

貴重なご意見ありがとうございました。

杉山昌之委員

もうそろそろ最後ですね。二年間ですかね。ありがとうございました。

最後なので話をすると、提言は僕らがまとめて博物館の方に出すべきものなので、なかなかまとめきれなくて申し訳ないなと思います。ここに出てきた「よく燃える薪」の話を具体的にする話を僕が前にしたと思います。変なことを言って申し訳ないなと思ったが、自分が委員として最後に提言できることとし

では、やっぱりこの部分かなって思っています。

僕の中では、子ども世代の魅力の継承と目的に向けて、ある程度絞られてきた中で、主体的に関わる子どもを増やしていくこと、それをここで求めていくべきことかなと思っています。方法や具体的なものは、これから考えていけばいくつも出でくると思いますが、やっぱり、薪をたくさん用意しておくことはもちろんすごく大事で、色々なバランスは必要なんだけど、その中で、やっぱり子ども自身による企画運営みたいなことは、驚きっていうのを外発的なものから内発的なものに変えていくと思います。大学生だとか高校生、場合によっては中学生が、自分たちの地域にあるこの登呂遺跡をどういうふうにしていくのかということのマネジメントしていくような、これこそがある意味ひとつの着火の手立てかなと思っています。外から火をつけようと思って、燃えてみろと言ってもなかなか燃えないけど、自分たちで着火していくような手立ては、そういうところにあるんじゃないかなと思います。こんなに楽しいから、こんなに勉強になるから、こんな感動するから来いよと言われてもなかなかできないですね。もちろんできる子たちもいるんだけど。そういう中で、自分たちが企画運営して主体となっていくような取り組みを進めていくってことこそ、取り組みをコンテンツというより機能として、枠組みとして取り入れていくというのが、着火の手立てになると思っているので、そんなことを最後に提言して終わりたい。ありがとうございました。

石川会長

ありがとうございました。

杉山美代子委員

町内の住民が本当にここに愛着を持っているのかというのはちょっと疑問に感じます。すぐ近所にあるので、いつでも行けるみたいなことなんだけど。再発掘したときに、弥生時代にはなかった木は全部撤去されたんですよ。桜の木も欒の木も木陰がなくなって、その時代のものしか置いちゃいけないと聞いたんですけど、それが事実かどうかわかりません。近所の人々が周りに草がはえるよりもお花を植えてみようと思って、つつじが枯れちゃったところへ植えたら、叱られてとられたという話も聞いて、なかなか親しみをもてない。ただウォーキングと犬の散歩に使うくらいになっているのかなという気がして。もう少し地域の住民が、貴重なものが自分たちの町にあると思えるものをちょっと考えてもらえるといいなって思います。子どもたちから親に伝えるっていうこともあるとは思いますが、それはちょっと感じています。

石川会長

どうもありがとうございました。

それではよろしいですか。今までのご意見を改めて整理した上で、答申をこれから作成するとして、答申を提出するにあたっては、私自身にご一任していただくか、それとも1回みなさんにフィードバックをした上で提出するか、どちらにしましょうか。1回フィードバックしますかね。

各委員

そうですね。

石川会長

その方がいいですよ。期限としては、7月中でなくても8月でも大丈夫ですよ。今日の議事録を出したうえで、素案を書かせていただいて、1回みなさんにフィードバックして、更に修正して、最終的に提言をする形でよろしいですか。

各委員

(了承)

石川会長

それではこれで議事を終了させていただきます。それでは事務局にお返しします。

事務局

それではこれもちまして、令和元年度第1回登呂博物館協議会を閉会といたします。本日の会議が、皆様に委嘱をさせていただきました2年間の任期における最後の会議ということになります。まだ提言の方も、フィードバックさせていただくなど、皆様にご協力いただくことがございますが、2年間ありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

委員
